様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ５ 月 ２３ 日現在

機関番号：３２６６３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３７０２６１

研究課題名（和文）英国中世・初期近代・近代の文献に現れた占星術概念の歴史的変遷に関する概念史的研究

研究課題名（英文）A Study of the History of Astrological Ideas from the Middle Ages to the Present

研究代表者
田中　一隆（Tanaka, Kazutaka）

東洋大学・文学部・教授

研究者番号：１０２２７１２６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：西欧占星術概念の歴史的な変遷について、デジタル・データベースを駆使して実証的に研究し、英国初期近代の作家における占星術概念の変遷について新しい知見を得た。具体的には、シェイクスピア（1564-1616）、ベイコン（1561-1626）トーマス・ブラウン（1605-1682）の作品に現れる占星術概念が新しい宇宙観を反映しているかについて分析を行い、シェイクスピアの語彙においては占星術概念が古い宇宙観に基づいているのに対して、ベイコンでは新しい宇宙観の枠組みにおいて成立していること、ブラウンの場合はシェイクスピアに近いが近代的な概念としても解釈できるような使用例が若干見られることを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This study aims to explore how ideas deriving from the astrological view of the universe have lost their original significations, changing their meanings to fit scientific view. The salient feature of this study is to make an extensive use of online databases of Literature Online and Early English Books Online in order to make this study a meaningful research which investigates as many examples of astrological ideas as possible. The study reveals that astrological ideas are differently used by such authors of early modern England as William Shakespeare (1564-1616), Francis Bacon (1561-1626), and Sir Thomas Brown (1605-1682). Shakespeare makes use of these ideas with strong implication of astrology while Bacon with scientific implications, with Brown providing intermediate case between the two. The study makes it clear that in the early modern England conflicts between the astrological and scientific views of the universe had already begun to emerge.

研究分野：英文学

キーワード：西欧占星術概念　歴史的変遷　概念史　英国初期近代　シェイクスピア　フランシス・ベーコン　サー・トーマス・ブラウン

## １．研究開始当初の背景

占星術(astrology)は、西欧古代、中世、初期近代（ルネサンス）、近代に渡って西欧世界における支配的な宇宙観であっただけでなく、言語史的観点から見れば、英語の語彙にも数多くの概念を提供してきた。現代英語においても表向きは占星術に由来していないように思われる語彙が、もとをたどれば占星術に起源を有するものが少なくない。たとえば、”disposition ”という語彙を取り上げてみる。この言葉は現代英語では「気質・性質」と「配置・配列」をその主要な意味としているが、かかる二つの、一方では(1) 抽象的・内面的な意味、他方では(2) 物理的・外面的な意味がなぜこの言葉に共存するか、という問い掛けは従来あまり為されてこなかった。世界最大の言語辞典であり、かつ英語語彙の歴史的変遷を詳説する *Oxford English Dictionary*（『オックスフォード英語辞典』）は、この相反する意味の原因を(2)から(1)への変化として説明する。即ち、もともと、占星術で使われるホロスコープ（horoscope）における惑星（planets）の「配置」や「付置」の意味であったものが、占星術的な人間観において、生まれながらにして決定されていると見なされた人間の気質や性質を意味するようになったというのである（*OED*, “disposition,”5, 6 を参照)。天動説から地動説へと至る西欧の宇宙観の変遷の過程において、かつて広範囲な影響を及ぼした占星術的な人間観は非科学的なものとして退けられ、”disposition ”の相反する二つの意味を結ぶ文脈（コンテクストは）現代英語においてまったく意識されなくなってしまった。しかし、たとえばシェイクスピアを代表とする英国初期近代文学においては、この言葉をめぐる相反的な文脈がまだ鮮やかに息づいていたことがうかがわれる。

本研究は、中世・初期近代・近代における占星術的概念（"disposition ”はその一例である。他に ”aspect,” “ climate,” “ dominant,” “ attract,” ” humour,” “ conjunction,” “ complexion,” その他多数の語彙がある）の歴史的な変遷について、デジタル・データベースの検索機能をフル活用して英語の語彙史的な側面から網羅的に分析するだけでなく、比喩表現や当該概念が現れる文脈にも細かい注意を払いながら文学的な解釈を施すことがその中心的な目的となる。さらに、占星術概念の歴史的な変遷の意義について、いわゆる「概念史」(History of Ideas)の観点から幅広い相関性を与えることによって、西欧概念史の難問の一つである ”Nature ”の概念史（"Nature ”の概念史は政治思想史や科学思想史ときわめて深い関連を有する）の解明にも貢献しうる。

## ２．研究の目的

本研究は、西欧占星術概念の歴史的変遷について、文献学的概念史(History of Ideas)研究と文学研究を合体させた総合的観点から検討を加えることによって、いわゆる天動説から地動説へと西欧の宇宙観が大転換を遂げる過渡期において、宇宙観の変遷と共に英語の語彙的な意味がどのような変化を遂げたかを、英国中世・初期近代・近代文献を対象に、概念史的・文献学的に明らかにすることを目的としている。その際に、(1) 近年めざましい発展を遂げつつあるデジタル・データベースを最大限に活用することによって精

緻で網羅的なデータに基づいた実証的な研究を目指すこと、(2) 単なる英語語彙史の研究に止まることなく、テクストを文学として扱うこと、以上の 2 点に留意する。

## ３．研究の方法

本研究は、デジタル・データベースの検索機能を最大限に活用し、西欧占星術に起源をもつ概念の意味と使用コンテクストの歴史的変遷を、文学研究の手法も絡めながら概念史的な観点から網羅的に研究しようとするものである。そのためには、(1) *OED* 等の Online 辞典の検索機能を利用して、西欧占星術に起源を持つ概念がどの程度あるのか網羅的に特定し、(2) その概念のそれぞれについて、Literature Online, Early English Books Online, British History Online, Oxford Scholarly Editions Online 等のデジタル・データベースを活用して、その意味と使用コンテクストの変遷等について、文学研究的な観点も含めて解釈を施し、(3) それぞれの概念の歴史的な変遷にいて概念史的な観点から検討を施し、(4) 最終的には占星術概念の歴史的な変遷について西欧世界観の変遷も視野に入れながら結論づける。

## ４．研究成果

本研究は、西欧占星術概念の歴史的な変遷について、デジタル・データベースを駆使して、実証的に検証しようとする研究である、英国初期近代を代表する作家たちの作品において、占星術概念がどのような変遷の過程を示しているかについて、新しい知見を得た。具体的には、ウィリアム・シェイクスピア（William Shakespeare, 1564-1616）、フランシス・ベイコン（Francis Bacon, 1561-1626）サー・トーマス・ブラウン（Sir Thomas Brown, 1605-1682）の作品に現れる占星術概念（例えば、"planet", "disposition", "astrology", "astronomy", “nature”等）がどの程度新しい宇宙観を反映しているかについて分析を行い、シェイクスピアの語彙においては、これらの占星術概念が古い宇宙観に基づいているのに対して、ベイコンの著作においては、これらの概念が新しい宇宙観の枠組みにおいて成立していることを明らかにした。トーマス・ブラウンの場合は、どちらかというとシェイクスピアに近いが、新しい宇宙観に基づく近代的な概念としても解釈できるような使用例が若干見られる。結論として、これらの初期近代を代表する作家たちの作品においては、西欧占星術概念の歴史的な変遷の端緒が確認された。

## ５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 0 件）

〔学会発表〕（計 3 件）

**1．** 田中一隆, 「Shakespeare における占星術概念の概念史的意義について」, 第 69 回日本英文学会東北支部大会, 2014 年 11 月 29 日, 弘前大学

**2．** 田中一隆,「悲劇とは何か―二つのロミオとジュリエットの物語をめぐって」, 平成 26 年度日本比較文学会東北支部大会シンポジアム, 2014 年 11 月 1 日, 弘前大学

３．田中一隆，「Shakespeare における astrology 概念とその翻訳―演劇言語の翻訳について」，日本比較文学会第 3 回北海道支部・東北支部共催比較文学研究会，2014 年 3 月 29 日，北海道大学

〔図書〕（計 1 件）

１．英知明、佐野隆弥、辻照彦、田中一隆共編，『シェイクスピア時代の演劇世界―演劇研究とデジタルアーカイヴズ』，九州大学出版会, 2015, 258 頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者

田中　一隆（TANAKA　Kazutaka）

東洋大学・文学部・教授

研究者番号：10227126

(2)研究分担者

（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者

（　　）

研究者番号：